

歩きたばこ対策のポイント

1. 現状

- ・人が集まる場所は歩きたばこ・ポイ捨て問題は発生する。
- ・特に繁華街の駅周辺はひどい状況。無秩序な喫煙シーンが繰り返されている。

人の集まる場所で、整然とした喫煙シーンに誘導できないか

2. 解決策のヒント

(1) 灰皿を有効活用していない

(2) たばこを吸う人と吸わない人の意識のギャップ

- ・たばこを持つ手は、子供の顔の高さだった。
- ・700度の火を持って、私は人とすれちがっている。
- ・吸いがらを排水溝に捨てた。というか隠した。

3. 問題解決の成功事例

(1) 平成15年第21回江東区民まつりの成功事例

- ・Smocar2+喫煙所6箇所を配置し喫煙者をうまく誘導

<成功のポイント>

表示の工夫

- ・区報および当日の会場案内図に喫煙所の場所を表示
- ・区報に「会場内での歩きたばこ禁止」「喫煙所での喫煙のお願い」を掲載
- ・喫煙所には喫煙所表示看板を掲げ、外観で分かるように工夫した。

場所の工夫

- ・人の動線はずししながらも、分かりやすい場所に喫煙所を配置。

不特定多数が来場するイベント会場内であっても、表示・場所の工夫によって多くの喫煙者を誘導できる。

(2) 渋谷八千公前喫煙所の成功事例

- ・渋谷駅周辺15箇所に喫煙所を配置し、駅周辺の喫煙者をうまく誘導
(ポイ捨て約1/3に減少=マスコミ報道)

<成功のポイント>

表示の工夫

- ・外観で分かるように工夫した。
- ・喫煙所デザインの整合性をとった。色・形状の整合性

場所の工夫

- ・人の動線はずししながらも、分かりやすい場所に配置。

継続的なコミュニケーション

- ・メッセージボードに「渋谷区分煙ルール」を表示

- ・灰皿に「新マナー広告のステッカー」を貼付

外国人を含む不特定多数の方が訪れる渋谷の街であっても、表示・場所の工夫によって喫煙者をうまく誘導できる。

5. 結論

灰皿をうまく活用すれば「歩きたばこ」「ポイ捨て」問題は解決できる。

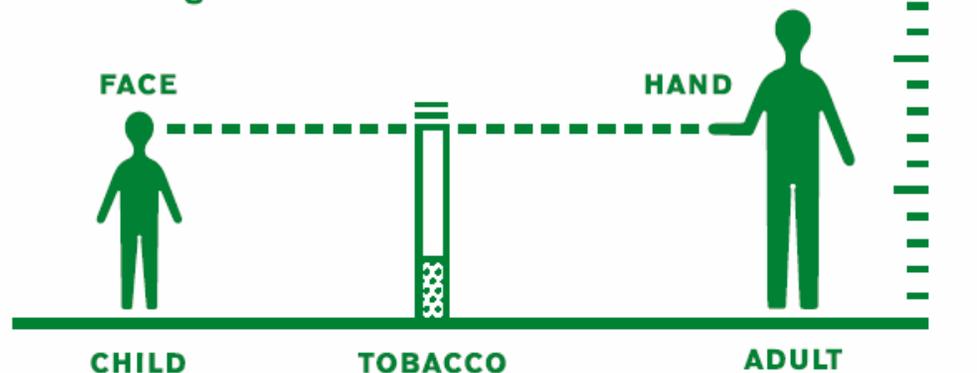
灰皿の機能

- (1) 吸い殻入れとしての機能
- (2) 喫煙場所としての機能
- (3) 情報発信機能（表示・コミュニケーション）

特に3番目の機能は重要。

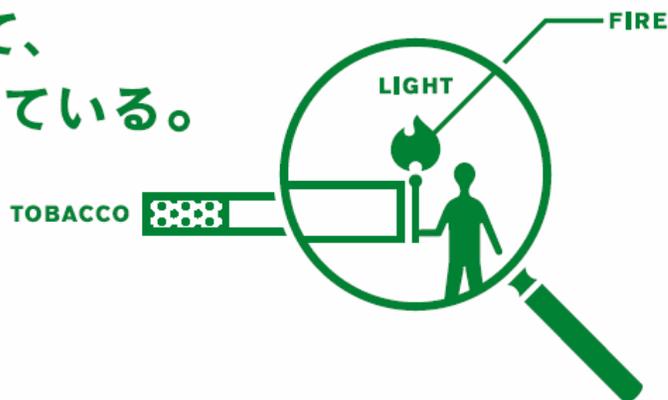
たばこを持つ手は、
子供の顔の高さだった。

A lit cigarette is carried
at the height of a child's face.



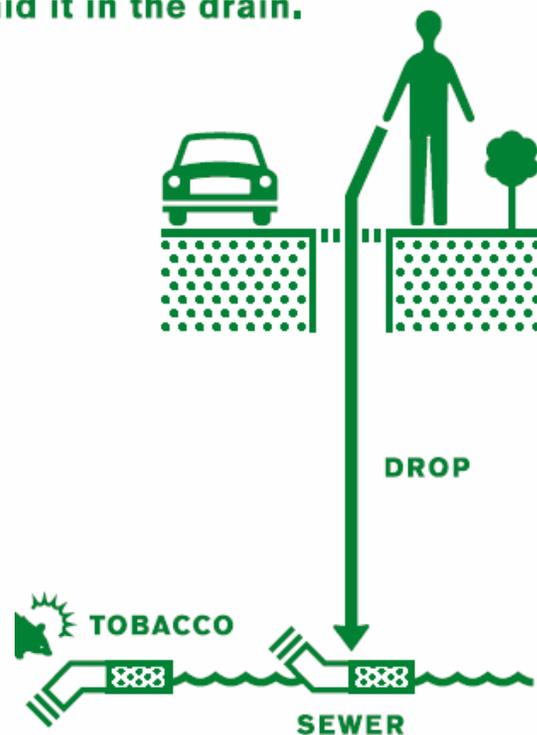
700度の火を持って、
私は人とすれちがっている。

I carry a 700°C fire in my hand
with people walking
all around me.



吸いがらを
排水溝に捨てた。
というか隠した。

I threw my cigarette butt
into the drain. That is to say,
I hid it in the drain.



渋谷区分煙ルール

Shibuya City Smoking Rules -For the improved coexistence of smokers and non-smokers



■ 歩行喫煙はしない

Please refrain from smoking while walking.

■ たばこは決められた場所で吸う

Please smoke only in designated smoking areas.

重点地区では、たばこは灰皿のある場所で吸いましょう。
その他の地区でも、歩行喫煙はせず、灰皿のある場所や、
携帯灰皿を使って、周りの迷惑にならない場所で、
立ち止まって吸いましょう。

たばこを吸う人も、吸わない人も、
お互い気持ち良くすごせる街に。



Smokers' style